

## マタイの福音書 5章 1-12 節

## 八の至福—約束されている祝福（6）

## 心の清い人の祝福

- 5:1 この群衆を見て、イエスは山に登り、おすわりになると、弟子たちがみもとに来た。  
5:2 そこで、イエスは口を開き、彼らに教えて、言われた。  
5:3 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。  
5:4 悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから。  
5:5 柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。  
5:6 義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。  
5:7 あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるから。  
5:8 心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。  
5:9 平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。  
5:10 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。  
5:11 わたしのために人々があなたがたをののしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせる  
とき、あなたがたは幸いです。  
5:12 喜びなさい。喜びおどきなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから。あなたがたより前  
にいた預言者たちを、人々はそのように迫害したのです。

はじめに

イエス様はこれらの教えを完全に実行した唯一の人なので、その美しい人格について復習しましょう。イエス様はご自分の信者全員の中で八の至福をすべて実現しようとされます。私達の中に同じ神の子供としての美しい人格を作り、私達を通してイエス様の美しさを表される為この教えが与えられています。

八の至福の順番は偶然ではなくて、すべて深くつながっていて山上の垂訓の教えは同じ順番で八の至福の意味を説明しています。ですから、聖書は聖書の一番良い注解書だという事が今日もわかります。

今日の6番目の至福は「心のきよい者は幸いです」ですが、先週の5番目「あわれみ深い者は幸いです」と直接つながっており、その順番も興味深いものがあります。

先週、7:1-5の箇所では他人を裁かない人はあわれみ深い人だというのがイエス様自身の説明だとわかりました。その結論は7:5に書いてあります。

マタイ7:5 「偽善者たち。まず自分の目から梁を取りのけなさい。そうすれば、はっきり見えて、兄弟の目からも、ちりを取り除くことができます。」 結論として、偽善者にならない為に自分の心の目がはっきり見えるようにしなさいというのがイエス様の厳しい言葉です。私の先週の一番最後の言葉ですが、その意味は他の人の罪や欠点を直す事が出来るということではなくて、逆に自分の心の目がはっきり見えるように生きるなら、他人の罪や欠点に目を付ける余裕はないはずで、大きい梁ほどの物を自分の目から取り除くにはどのぐらいの時間がかかるのでしょうか。いくら時間が経ってもあなたは他の人を裁ける立場にならないという意味です。

今日はその話の続きとして、心の目で神様を見るように自分の心がきよめられるようにしなさいとイエス様は言っています。「心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。」

神様が見える目、つまり、心の目の視力を邪魔するのは罪です。それでイエス様はまず自分の目から、梁を取り除くようにしないままで他人の罪や欠点を指摘する人は偽善者だと言っています。

今日は神様を見ることのできる目における三つの段階について話したいと思います。一番大切なのは、どの段階に進んでも、卒業するような時は来ません。天国でイエス様と顔と顔とを合わせて直接見るまで、常にもっとはっきり見えるように進んで行くのがとても大切です。使徒パウロでも、誰にも負けないくらい素晴らしい啓示を体験して第三の天まで引き上げられて話を聞いても、次の言葉を書きました。

コリント第一13：12「今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ていますが、その時には顔と顔とを合わせて見ることになります。今、私は一部分しか知りませんが、その時には、私が完全に知られているのと同じように、私も完全に知るようになります。」

### 1. イエス様を救い主として見る。

ヨハネ3:3. イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」

神の子供として新しく生まれた人は心の目が開かれて神様の現実が見えるようになります。それまではいくら神様の話を聞いても、本当にいるかどうか分かりません。多分どこかにいるだろうと思う事があっても確信はありません。それは、すべての人間の生まれながらの罪の性質で、神様に対して盲目の状態です。

第二コリント4:4-6. 「そのばあい、この世の神が不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです。4:5 私たちは自分自身を宣べ伝えるのではなく、主なるキリスト・イエスを宣べ伝えます。私たち自身は、イエスのために、あなたがたに仕えるしもべなのです。4:6 「光が、やみの中から輝き出よ。」と言われた神は、私たちの心を照らし、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせてくださったのです。」

イエス様を通して神の栄光が見えるまでは未信者として盲目ですが、イエス様を自分の救い主として信じて受け入れる時にイエス様は私達のすべての罪を赦してきよめてくださるから、神様を見ることのできる目が与えられます。イエス様をとおして神様を見ない限り他のどこにも見る事は出来ません。

ヨハネ14：9. 「イエスは彼に言われた。「ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください。』と言うのですか」。

それで、最初にイエス様が永遠に生きている神の子だとわかるようになって初めて、あなたは幸いですとイエス様に言われます。

マタイ16:16-17. 「シモン・ペテロが答えて言った。「あなたは、生ける神の御子キリストです。」16:17 するとイエスは、彼に答えて言われた。「バルヨナ・シモン。あなたは幸いです。このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。」

イエス様を信じてそれをペテロのように人の前で明確に告白すれば、あなたはペテロと全く同じように幸いですとイエス様に言われます。神様の祝福があなたの上にあるという意味です。

美しい実例があります。

ヨハネ9:3(25). 9:3 イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現われるためです。」 全部を読む時間はないから、跳んでV25節。

25節「彼は答えた。「あの方が罪人かどうか、私は知りません。ただ一つのことだけ知っています。私は盲目であったのに、今は見えるということです。」

神学的な事を全く知らなくても、この世で天才と呼ばれている凄い学歴を持っている人さえ知る事の出来ない一番大切な事を知っているとと言えます。「私は盲目であったのに、今は見える。」これは、世界中で親しまれている「驚くばかりの」の讚美歌の歌詞の通りです。でも、この話の一番美しい部分を読んで、イエス様の美しさを改めて見て頂きたいと思います。

ヨハネ9:35-38. イエスは、彼らが彼を追放したことを聞き、彼を見つけ出して言われた。「あなたは人の子を信じますか。」 9:36 その人は答えた。「主よ。その方はどなたでしょうか。私がおの方を信じる事ができますように。9:37 イエスは彼に言われた。「あなたはその方を見たのです。あなたと話しているのがそれです。」 9:38 彼は言った。「主よ。私は信じます。」そして彼はイエスを拝した。」

宗教の指導者達はひどい差別をして「あなたは全く罪の中で生まれたから、その状態になっていた」と言いましたが、イエス様は彼が追放されてひどい扱いを受けている事を聞いてわざわざ探して救いの確信に導きました。

ここで大切な事が学べます。イエス様は差別を受けている人をわざわざ探して救いに導きました。人間の社会で受け入れられない人、拒絶されている人はイエス様に必ず受け入れられます。

## 2. 神様の御心を見る。

クリスチャンの会話で神様の御心という表現を聞く時、進むべき方向についてという意味として使われています。

一方、聖書で神の御心という表現を読む時、ほとんど信者の心の状態や生き方について書いてあります。

この山上の垂訓のイエス様の教えも行動だけではなくて心の状態について書いてあります。

マタイ5:20-48まで全部心の状態について書いてあります。

5:20 「まことに、あなたがたに告げます。もしあなたがたの義が、律法学者やパリサイ人の義にまさるものでないなら、あなたがたは決して天の御国に、はいれません。

5:21 昔の人々に、『人を殺してはならない。人を殺す者はさばきを受けなければならない。』と言われたのを、あなたがたは聞いています。

5:22 しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に向かって腹を立てる者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に向かって『能なし。』と言うような者は、最高議会に引き渡されます。また、『ばか者。』と言うような者は燃えるゲヘナに投げ込まれます。」

この後も5章の最後の48節を読めば、自分の心が神様の目から見てきよいかどうかは神の愛で満たされているかどうかの問題だとわかります。完全な愛とは神様の無償で、分け隔てのない、自己犠牲の愛です。

規則に従う律法的な宗教ではありません。それはパリサイ派の生き方で、厳しくあわれみのない心を起こしてしまうので、イエス様はそれを偽善者と呼んでいます。

心の中が神様の愛で満たされ、その愛で心が支配されるようにすれば、それが心の思いや態度や動機まできよいままで守られる唯一の方法だとイエス様は教えます。イエス様はすべての信者の中でこの基準を実現する為にこれを教えて下さっています。

そこまで清い心を保つためには、完全隔離をしなければならないと間違っって考えやすいです。その為に修道院のような所がありますが、それは御心ではありません。この世の中で神の愛を実行しなさいと教えています。

ヨハネ17:15-17 「彼らをこの世から取り去ってくださるようにというのではなく、悪い者から守ってくださるようお願いします。

17:16 わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではありません。

17:17 真理によって彼らを聖め別ってください。あなたのみことばは真理です。」

これは、イエス様が地上で最後に信者の為に捧げた祈りです。大祭司の祈りと呼ばれています。

今の私達も含めてすべての時代の信者に対するイエス様の願いとして書いてあります。

聖書の御言葉に従う事によってすべてを神様に委ねる時、イエス様はそこまで私達の心を愛で満たして下さいます。

ヨハネ13:34-35. 「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

13:35 もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」

ローマ12：1-2. 「そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたをお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。

12:2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。」

心の目がはっきり見えるようになって自分にとって何が御心であるか、すなわち、自分にとって何が最善で、受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知る為です。

「それこそあなたがたの霊的な礼拝です。」

日曜日の礼拝だけではなくて、日々自分自身の礼拝を神様に捧げるという意味です。これをしていないなら、神様の御心は分からないし見えません。

### 3. 神様の御手を見る。

主権を持っている 神の御手を見る祝福です。

7節後半「その人たちは神を見るから」の意味は更に深い意味もあります。

イエス様は、いつでもどこでも、神様の御手が全てを支配して導いておられるのを見る事が出来ました。それで私達に自然界の中で空の鳥や野原の花を見なさいと言っています。別の箇所でああなたがたの頭の神の毛まで数えられていると教えて下さいました。

それが見えていたから、一度も心を騒がす事はありません。心配や恐れによって心が乱れてそんなものに支配される事はないでしょう。私達は普段そこまで見えていないから、すぐ不安になって常に心配するように、または恐れに陥るように誘惑されます。誘惑は罪ではないから、それを気にしないで下さい。でも、そんな思いに振り回されないように気を付ける必要があります。

鳥の巣の例え。

不安な思いや心配するような思い、それ以外の思いも、例えば、人を赦せない思いや恨むような思い、神様に喜ばれない思いが頭に浮かぶ時があります。それは単なる悪魔からの誘惑に過ぎないのです。鳥が頭の上を飛んでいるのと同じように止められないものです。気を付けなければならないのは自分の意志でわざとそんな思いを心に留めて考え込まない事です。自分の意志でそれを選んでしまうなら、神様に喜ばれない否定的な感情を引き起こしてしまいます。結論は頭の上を飛んでいる鳥は自分の責任ではないが、その鳥に自分の頭の上で巣を作らせるなら、自分の責任になっています。そういう場合は、悔い改めて神様に罪として告白しなければ、それに支配されてしまいます。

ヨハネ第一1:7. 「しかし、もし神が光の中におられるように、私たちも光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。」

ここで清めるという動詞は清め続けますという意味です。み言葉の光の中を歩んでいるなら、という条件があります。救われてそこで立ち止まるのではなくて、信仰によって歩みます。

その続きの御言葉にも素晴らしい約束があります。

9節 「もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」

信仰が成長していくと同時に神様の御手が見える時が増えていきます。それと同時に平安で過ごせる時が増えて心配や恐れに墮ちる時が少なくなっていくます。もちろん、先週にも言いましたが、いつも、神様の平安が心を支配するようにイエス様を信じるように召されています。心配する思いや恐れる思いは絶対に神様から与えられていません。単なる悪魔の誘惑に過ぎません。

「心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。」

### まとめ

第一ヨハネ3:1-3. 3:1 「私たちが神の子どもと呼ばれるために、——事実、いま私たちは神の子どもです。——御父はどんなにすばらしい愛を与えてくださったことでしょうか。世が私たちを知らないのは、御父を知らないからです。

3:2 愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現われたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。

**3:3** キリストに対するこの望みをいただく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします。」

イエス様が山上の垂訓を与えた目的は、今この地上でこの祝福のすべてを私達に実現させて下さるためです。

3 : 3に書いてありますように「この希望を抱く者はみな、キリストが清くあられるように自分を清くします。」 誰も自分だけで出来ないから、信仰の創始者であり完成者であるイエス様が保証してくださいます。

ピリピ<sup>1</sup>1:6 「1:6 あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。」